

2022年5月11日(水)第二水曜祈祷会

エステル記4:1~17

「痛みを自分のことにする決断」

【エステル記の1~3章】

- ・聖書の中では特異な書。神の名が一度も出てこない。主人公の名が書名。著者は不明。
- ・ペルシャを統治するクセルクセスの時代。多くのユダヤ人が故国に帰還せず、残留していた。
- ・王は、王妃ワシュティを失脚させ、モルデカイの養女エステルが新しい王妃として選ばれる。
- ・王の寵臣ハマンはモルデカイの態度に腹を立て、ユダヤ人虐殺を王国中に公布する。

【観察と黙想】

1. モルデカイと全ユダヤ人の悲嘆(1~3節)

- ①「なされたすべてのことを知った」モルデカイは、どうしましたか。それは何を表していますか。
→衣を引き裂き、粗布をまとい、灰をかぶり、大声で激しくわめき叫んだ。深い悲しみを表す
- ②王の勅令が届いたユダヤ人たちは、どうしましたか。断食は何を表していますか。
→大きな悲しみ。断食と泣き声と嘆き、粗布をまとった。「断食」は神への「祈り」を表す。

2. エステルに真実を伝えるモルデカイ(4~9節)

- ①エステルが送った衣服を、モルデカイはどうして受け取らなかったのですか。
→エステルとモルデカイとの関係は秘密にしておかなければならなかった。
- ②エステルは宦官のハタクを通じて、モルデカイにどんな質問をしましたか。
→どうしてこんなに嘆いているのか。どうして服を着替えないのか。
- ③モルデカイは宦官のハタクを通じて、エステルにどんな伝言を送りましたか。
→ユダヤ人抹殺命令が出たこと。ユダヤ人のために王を説得してほしい。

3. エステルとモルデカイの信仰の決断(10~17節)

- ①エステルは宦官のハタクを通じて、モルデカイにどんな伝言を送りましたか。
→王の召しを受けずに中庭に入る者は死刑となる。自分は30日間も王に呼ばれていない。
- ②モルデカイはエステルにどんな返事を送りましたか(4つ)。
→エステルにも危機。救いは神から。神への不従順は自らとその家の滅び。神の召しは「今」。
- ③エステルはモルデカイにどんな返事を送りましたか(4つ)
→ユダヤ人に三日三晩の断食。私も侍女も断食する。法令に背いても行く。我もし死ぬべくば…。

【適用と分かち合い】

- ①モルデカイがエステルに告げる言葉から、彼のどんな信仰が見られますか。
- ②エステルのモルデカイに応える言葉から、彼女のどんな信仰がわかりますか。
- ③神の御心を求め、それに従うために、最も必要なものは何ですか。